

MACC（荒川区モノづくりクラスター）プロジェクトに関して意見交換を行う「第3回MACC産学交流会」が7月4日、荒川区役所で開催されました。交流会では、産学官の“顔の見えるネットワーク”を構築して顕著な成果をあげた平成19年度の活動報告のほか、次のステップに向けて力強く事業を進める「MACCプロジェクト推進協議会」の設立や、大手・中堅企業との連携など新たな活動方針が公表されました。当日は会員企業をはじめ、研究機関、支援機関など50人余が参加、着々と進展するプロジェクトに期待とエールが送られました。

MACCのさらなる“シンカ”に向けた新たな挑戦

第3回MACC産学交流会を開催

～19年度の「深化」をテコに、20年度は「進化」を目指す～

交流会の冒頭、荒川区の西川太郎区長が挨拶し、「MACCプロジェクトを立ち上げて丸2年が経過した。この間、想定した事業が順調に進行し、具体的成果を上げて、区の産業発展の可能性を広げることができた。計画を発表した2年前に、あるマスコミから取材を受けて、成果が上がらなければ単なる大風呂敷になると指摘されたが、この短期間に好結果を残せたことに感謝している。国のクラスター計画を推進している経済産業省の幹部も、各地域で成果を上げるには自治体の力が大切だと強調していたが、いまその点も実感している。国レベルでは“農商工連携”を打ち出して、農業支援を重視しているところだが、私はモノづくりの中小企業に農業以上の支援が必要だと声を大にしたい。モノづくりの発展が荒川区の元気につながるとの認識で、MACCプロジェクトを力強く推進し、さらに成果を上げていきたい」と述べました。産学交流会の概要は以下の通り。

【平成19年度活動報告】

豊泉光男氏：荒川区産業経済部経営支援課
MACCシニアコーディネータ



豊泉シニアコーディネータ

平成18年7月にスタートしたMACCプロジェクトは、19年度までを“立上期”として事業活動を行ってきた。当初から「荒川区内のモノづくりに関わる様々な人々の顔の見えるネットワークの構築」をキャッチフレーズに、「会員企業が元気になることで、関連



西川 太郎荒川区長

する区内企業・産業を活性化し、荒川のまちをもっと元気にする」との考えに立って事業を実施しているところだ。

平成19年度は、どの時点でどんな事業を実施するかを示す「ロードマップ」(工程表)を4月に発表し、5月に組織内外の連携を支援し、具体的事業を調整・進行する専属のコーディネータを配置した。全体的に

は、ネットワークの構築を重視した取り組みとして「MACCセミナー」(5月)、「MACC産学交流会」(7月)、「MACCプロジェクト・フォーラム」(11月)を開催した。その内容については、情報誌「MACC通信」(A4判)を隔月ペースで発行してお知らせしてきた。

この間、MACC会員は順調に拡大し、平成20年6月末現在で、72社・団体に達している。そのうちの22社については、「はばたく!MACCプロジェクト~キラリと光る荒川区のモノづくり企業~」という表題の企業紹介パンフレットにまとめ、配布している。

19年度で顕著な成果は、MACCプロジェクトの中から、荒川発の新製品が続々登場してきたことにある。その原動力になったのは、産学連携。プロジェクト推進による先行事例を創出しようとの考えで、地元にキャンパスのある首都大学東京健康福祉学部との連携による健康福祉プロジェクトに取り組んだ。同学部と区が連携して、区民1万人を対象とするアンケート調査を行い、そこから高齢者ニーズを捉えて、区内企

業とのタイアップを実現して新製品・新技術開発を進めた。

早々と成果が表れて、9月に開催した「メタリックシンドローム(内臓脂肪症候群)成果発表会」で、製品開発の第1弾となる4つの商品が発表された。

続いて、20年2月に「高齢者ニーズ調査新製品発表会」では、同じく首都大学東京健康福祉学部と区内企業との産学連携の第2弾として、8社・8点が新商品を発表しました。この発表会の様子がNHK総合の番組「こんにちはいっと6けん」の特集コーナーで放映されて、大きな反響を呼んだことは特筆されるが、新商品の中には荒川ショッピングモールで発売を開始した商品もある。

年度末の段階で、MACCプロジェクトとして商品化あるいは開発中のものは、18件ほどに及び、そのうち3件が本格的な販売に入ったところだ。さらに、これらの新商品のうち3件は、産学共同で特許や実用新案を出願するケースも出ている。MACCによる知的財産が創出されたことになる。

【平成20年度活動予定】

石原久氏:荒川区産業経済部経営支援課長

MACCプロジェクトは、平成20~22年度を事業展開の「成長期」と位置づけている。これまでの「立上期」の実績を踏まえ、さらなる発展に向けて、運営体制や事業活動を強化・拡充し、プロジェクトを“進化”させる取り組みを進める。

1つ目は、ビジョンの策定と共有化。情報発信を強化するため、情報誌「MACC通信」の発行を隔月スパンから毎月発行に増発するとともに、数多くの新製品開発を広報し、販売促進につなげるため、MACC新製品チラシを発行する。

2つ目は、顔の見えるネットワークの構築。事業活動の柱として、「MACCプロジェクト・フォーラム」や「MACCセミナー」などの勉強会、交流会を開催する。製品開発の実情や課題解決を学び、アイデアや“思い付き”の結集を図る。専属のコーディネータを増員し、意欲的な区内企業への支援を充実し、戦略的な産学連携・企業間連携を進める。

3つ目は、大手・中堅企業との連携による販路開拓への挑戦。MACC会員企業の製品開発が活発化している

ことを背景に、消費者と直接つながっている大手・中堅企業との連携を構築、販路開拓を模索する。また、区内には中間財を扱う中小企業も多いので、大手・中堅企業との連携で柔軟な産業集積を構築する。

4つ目は、「若手経営者・後継者の会」の設置。区の産業界の次世代を担う若手経営者・後継者を対象に、顔の見えるネットワークを形成して相互に研鑽し、交流を深める。新設の会は、肩書きや形式を意識しない仲間づくりの場とし、本音の議論と若手の思い付きによる新事業創出を狙う。7月から月1回の定例会を開き、専属コーディネータのほか、外部の専門家との交流も行う予定。

5つ目は、都立産業技術高等専門学校と連携したモノづくり技術向上支援事業の構築。高専荒川キャンパスとの連携で、技術指導・相談を行い、区内企業の技術的課題に対応する。同高専の先生方が企業・現場に出向いて直接相談(費用は区が負担)に応じることもできるようにする。単なる産と学の連携に止まらず、産と学に眠るニーズやシーズのマッチング活動を通じて新たな製品開発や事業化を図る。

6つ目は、「MACCプロジェクト推進協議会」の設立。

7つ目は、コーディネータの増員。新たな段階に入ったMACCプロジェクトを運営する体制強化の一環として、若手の専属コーディネータを1人増員した。すでに活動しているシニアコーディネータを含め、2人体制とした。増員により、戦略的な産学連携・企業間連携をコーディネートし、区内企業へのワンストップサービスを強化する。新任コーディネータの谷口浩二氏(たにくちこうじ)は、国際経営(MBA)、ベンチャー経営論を専門とし、産業インキュベーションや事業再生の経験もある。今回、新設される「若手経営者・後継者の会」に参加して、運営支援することが決まっている。

なお、紹介を受けた谷口氏は、「2年間、中小企業を研究してきた。今度は実践、経験を積み上げていく。MACCプロジェクトを進展させるお手伝いをし、必ず結果を出していきたい」と挨拶しました。



石原氏の話に熱心に聞く皆さん

【首都大学東京の産学公連携の取り組みについて】

室山丈夫氏:首都大学東京産学公連携センター
産学公連携コーディネータ

首都大学東京は、活力ある長寿社会の実現に向けて、産業公連携に積極的に取り組む方針を打ち出している。学部は都市教養・都市環境・システムデザイン・健康福祉の4学部。大学院では人文科学・社会科学・理工学・都市環境科学・シス



室山丈夫コーディネータ

テムデザイン・人間科学の6研究科を抱える。教員は700人。民間企業との連携のほか、東京都や自治体の「公」の連携も重視し、「産学公連携センター」が窓口となり、6人のコーディネータを配置して、多角的な連携事業を

行っている。

荒川区とは、区内にキャンパスのある健康福祉学部が連携し、「荒川ころばん体操」「荒川版座位体操」を共同開発したという実績がある。MACCプロジェクトがスタートしてからは、区民を対象にした「高齢者生活実態アンケート調査」を実施し、その勉強会を経て、会員企業と組んだ新製品開発が広がった。

製品の中には、当大学の教員が提案した製品と企業側から提案されて当方が協力している製品がある。「共同研究」方式の製品開発は出ていないが、荒川区で必要なものは区内で開発し、区内で使おうという熱意が感じられる。MACC関連は開発テンポが速く、短期間で具体的成果を出していることが特徴だ。そのスピードに驚いているくらいで、出足は好調と言える。

MACCプロジェクトは、荒川区を軸に企業、大学、研究機関、公的支援機関の広範なネットワークを構築していることが強みである。この力強さを発揮して、今後は企業群と自治体・地域コミュニティの連携に発展させ、活力ある地域づくりを目指してほしいと思っている。例えば、まちづくり、環境、安全・安心などのテーマが挙げられる。

さらに、首都大学東京として提案したいテーマは、生活支援型ロボットシステムの開発だ。一般に、ロボット研究の成果は生活・福祉の分野ではあまり実用化されていないので、福祉ロボットやコミュニティロボットなどを開発する産学公連携に期待している。



懇親会の様子

【MACCプロジェクト推進協議会の設立について】

この第3回MACC産学交流会に合わせて、「MACCプロジェクト推進協議会」の設立準備総会が開かれ、同協議会が正式発足しました。協議会は事業展開の成長期に入ったMACCプロジェクトの中核として、荒川区を

元気にする新産業・新事業創出への取り組みを加速します。

充足したMACCプロジェクト推進協議会は、任意団体ですが、荒川区でモノづくりに関る企業、大学、研究機関、支援機関から代表が参加し、産学官を網羅した体制で運営されます。

協議会の会長には荒川区の西川太一郎区長が選任されたほか、産と学の代表による副会長（5人）支援機関を中心にした顧問（7人）が置かれました。また、事業活動を戦略的に推進する執行部隊として、実務者や企業者などで構成する運営委員会が設けられ、その委員長には星野敏氏（日本立地センターインキュベーション研究所長・日本新事業支援機関事務局エクゼクティブインストラクター）の就任が決まりました。

協議会は、本格化してきたMACCプロジェクトの推進母体として事業運営に当たり、荒川版クラスター（産業集積）を目指して「新事業・ベンチャー企業の創出」や「既存企業の第二創業や経営革新」などをすすめます。区内だけでなく、他の集積地域の企業や団体との交流も推進します。

協議会は ネットワークの形成、産学連携・企業連携の促進、新製品・新技術開発の支援、販路開拓の支援、情報の提供 などの事業を行います。

9月上旬に開催予定の「MACCプロジェクト・フォーラム」で協議会設置、役員などをお披露目し、10月に「第1回運営委員会」を開催して、実質的な活動に入ります。

MACC プロジェクト推進協議会役員、顧問一覧および体制図

会長

西川 太一郎（荒川区長）

副会長

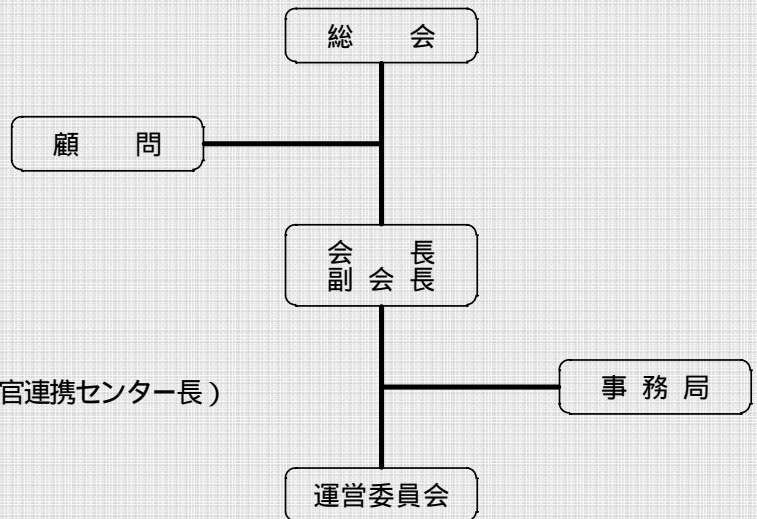
- 竹内 一（東京商工会議所荒川支部会長）
- 増野 鋼四郎（荒川区工業団体連合会会長）
- 繁田 雅弘（首都大学東京健康福祉学部長）
- 荒金 善裕（東京都立産業技術高等専門学校長）
- 柳下 宏（（独）産業技術総合研究所関東産学官連携センター長）

顧問

- 藤田 昌宏（経済産業省関東経済産業局長）
- 富永 豊郷（（独）中小企業基盤整備機構関東支部長）
- 星川 尚一郎（（財）東京都中小企業振興公社城東支社長）
- 杉山 稔（荒川区しんきん協議会会長）
- 岩下 誠宏（荒川区産業振興懇談会座長）
- 二神 恭一（早稲田大学名誉教授、愛知学院大学経営学部教授）
- 山崎 朗（中央大学経済学部教授）

運営委員会委員長

星野 敏（（財）日本立地センター インキュベーション研究所長、日本ビジネスインキュベーション協会会長）



立秋とは名ばかりで、残暑の厳しい日々が続いていますね。皆さん、夏バテなどしておられませんか？

さて、今回は「商品コンセプトの確立」についてお話ししました。第三回目は、「製品化」についてがテーマです。

いよいよ新商品創出のステージも“ものづくり”の中心となる製品化の段階にまいりました。ここでは、しばし再度、製品化の前に必要なステップをご案内申し上げます。

以下の必要ステップを上げることができます。どうぞ、貴社の製品開発にご活用下さい。

1) アイデアの創出：一部の人に限らず、多くの社内・社外からのアイデアを探すが、アイデアの源泉は、顧客のニーズやクレームの中に最も存在することを忘れないで下さい。

2) アイデア・スクリーニング：ここでは、アイデアを一覧にして、A, 競合製品との比較、B, 予想売上、C, 予想価格、D, 予想利益、E, 開発時間、F, 販売能力、G, 必要資金、H, 必要技術、等を比較し、絞り込むことが重要です。

3) 製品コンセプトの開発：A, 誰が買うのか。B, 購入者の求める製品価値は何か。

C, 使用シーンは?をはっきりさせる事が重要です。

さらに続いて4) マーケティング戦略の立案、5) 収益性分析も行ったうえで、いよいよ製品化の着手に取り掛かります。

多くの中小企業の場合、これらの事前ステップを行わずに特定な人の想いだけで、一気に製品化に向かってしまい、結局、売れない製品の在庫の山を築く事がないよう注意したいですね。

最大の準備は、自社の製品開発のリスクを最小にすることにつながります。

その意味では、事前の準備は必須条件と言えます。ぜひ、実行を心がけて下さい。

また製品化にあたっては、中でも下記の2点を重点に、開発にあたることをお勧めいたします。

想定する顧客のニーズ(欲求)に基づいた「価値」を織り込んだ製品設計を行っているか。

購入者が求める価格を決定し、その後、企業の必要利益を算出し、

{ 想定価格 必要利益 = 目標原価 } より製品化における製品の「目標コスト」実現は可能であるか。

という点に配慮していただく事は、成功のポイントです。では、今回はこの辺で終了いたします。

受注拡大を考えると、多くは、新製品開発、マーケティング調査、営業の強化等を思い浮かべると思います。どれも必要なことですが、もうひとつ、実際の企業の調達・購買部門、企画設計部門等の担当者の話を聞いてみたいと思いませんか。

今回は、東レエンジニアリング(株)にて、設計部、生産技術、生産管理、外注・調達の実務経験を34年間積み、現在「京都試作センター」の技術アドバイザーとして活躍されている村田敏治氏の著書『受注拡大のための10の条件』(新風社、1,200円+税)を紹介します。

本書では、村田氏の資材調達担当者としての長年の経験を活かし、発注側が新規の外注取引先をいかに選別しているか、そして、初めての取引開始から継続発注に至るまで外注先に何を期待しているかということが、生々しく語られています。しかしながら、他の類似の書籍の多くにみられるような、受注拡大のための「ノウハウ」を「上から目線」で伝えようとするものではありません。そのことは「発注側も実は苦しい!!」の言葉で始まるプロローグに示されています。そこでは、企業内の購買部門や調達部門のおかれた「立

ち位置」の難しさ、そしてその苦悩が語られ、しかし、だからこそ、発注担当者も変わらなければならない、そして「『自分の会社でできないことを、お願いして造ってもらおう』とする基本姿勢が根底に流れていなければ気概が通じた取引はできない」とした村田氏の哲学は、本書全体に貫かれています。

ちょっと一息...BOOKナビ



村田氏が語る、「受注拡大のための10の条件」は、役に立つ「ノウハウ」ばかりではありません。これからの時代は、単にC・Q・

D・S(コスト、品質、納期、サービス)の条件を満たすだけでは、受注拡大は難しいこと、言い換えれば、逆説的ではありますが、「大企業が中小・零細企業と直接の取引をするわけがない」という神話が崩壊したことを説得的に教えてくれる内容となっています。困難な時代になればなるほど、中小・零細企業のチャンスが無限に広がる。まさに、荒川区の事業者に向けた「応援歌」として読めてしまうのは私だけでしょうか。(N・S)



第3回 MACCプロジェクト・フォーラム 開催のご案内

荒川区では、第3回MACCプロジェクト・フォーラムを開催します。

MACCプロジェクトも3年度を経過し、会員企業の皆様の精力的な活動により、各種製品化が実現するなど、活動の成果は着々と実を結びつつあります。

今回は、これらの成果を紹介するとともに、中小企業論を専門とし、わが国中小企業政策にも数多くの提言を実施してきた専修大学教授 黒瀬直宏氏を招いて、そしてMACC会員企業のさらなる発展に向けた課題についての対話を実施します。日程等は以下の通りです。奮ってご参加ください!!

【開催日時】9月10日(水) 16:00~19:30(交流会 18:15~19:30)

【会場】首都大学東京健康福祉学部 大視聴覚室(首都大学東京荒川キャンパス)

【その他】詳細はパンフレットを御覧ください。お問い合わせは、荒川区産業経済部経営支援課(03-3803-2311)まで。

MACCコーディネーター TOMMYの部屋 VOL. 6

荒川グルメ物語

MACC シニアコーディネーター 豊泉光男

今回の荒川訪問は、「うなぎの尾花」です。

場所は、南千住駅、歩3~4分の線路脇で、駅で聞いても、周辺で聞いても誰でもご存知の有名店です。

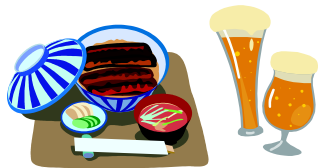
夏の土用の近いせいもあってか、土曜日の4時でも待ち行列は店から道路まで長々と続いています。

立ちどろしの1時間半は、団扇があっても、汗だくの我慢比べの皆の衆、ますます“うなぎ”に期待が高まります。

待ち列も店に近づくとつれ、焼き垂れの香ばしい臭いが、胃液の分泌を加速し、ガラス越しの食事風景は、腹音の演奏を助長します。全く、これでもかの演出と言わざるをえません。

ようやく、長い待ち行列の旅路を終えて、畳の席に到着しました。

機関銃のように続けざまに、注文! ビール、うなぎ酢の物、おしんこ、肝焼き、白焼き、うなぎ。



渴いたのどへのビールは、正に「神様ありがとう!」の叫びが出てしまいます。

今回は、「う巻き」ではなく「うなぎの酢の物」を頼んだのですが、これが絶品でありました。

お陰で、神様に感謝しつつ、ビールは2本目に突入していきました。

「しら焼き」は、ふっくらとしているが香ばしく思わずビールが進んでしまいます。

いよいよ、取りを務める“うなぎ”の登場、蓋を開けるとうなぎの香ばしさとたれの香りが絶妙なハーモニーを奏でています。

箸を入れる何ともふっくらと柔らかい、まるでとろとろとご飯と一体となって、口中に美味しさのゴスペルを発散しています。

二口、三口とあっと言う間の完食でした。

「うなぎの尾花」まさに荒川にうまいもの有りの一日でした。

お陰で2時間の帰宅も苦になりませんでした。

夏ばて防止に、“うの字”とは、昔の人は、よく言ったものです。荒川に名店あり一度、汗だく2時間待ちで、夏の思い出にいかがでしょうか。

ねえ、MACCの皆様! おっと、懐ぐあいの相談もですね。

お問い合わせ先

荒川区産業経済部経営支援課

TEL : 03-3803-2311 FAX : 03-3803-2333

E-mail : macc@city.arakawa.tokyo.jp

MACCホームページアドレス

<http://sangyo.city.arakawa.tokyo.jp/macc/>